



平成 29 年 5 月 12 日

各 位

会社名 株式会社 フレンドリー
代表者名 代表取締役社長 後藤 政利
(コード 8209 東証第 2 部)
問合せ先 経営管理部長 中尾 武史
(TEL 072-874-2747)

特別損失の発生及び平成 29 年 3 月期通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ

平成 29 年 3 月期累計期間におきまして、特別損失の計上をすることになりましたのでお知らせするとともに、平成 28 年 11 月 4 日に公表しました平成 29 年 3 月期(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)の業績予想と実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期累計期間に発生した主な特別損失の内容

不採算店舗に係る減損損失 148 百万円、及び店舗閉鎖損失 32 百万円、固定資産除却損 5 百万円、合計 185 百万円の特別損失を計上いたしました。

2. 平成 29 年 3 月期通期業績予想との差異(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,192	34	43	△25	△2.49
実績値(B)	7,890	△153	△144	△356	△26.89
増減額(B-A)	△302	△187	△187	△331	—
増減率(%)	△3.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 3 月期)	8,675	28	38	△176	△13.56

3. 差異の理由

売上高につきましては、6 店舗の閉店と既存店売上高の計画未達を主な要因とし、前回予想を下回る結果となりました。各業態毎に販売促進等の対策を実施いたしましたが、消費者の節約志向は依然として強く、11 月 4 日以後の計画比で来店客数が 93%及びお客様単価が 97%となり売上高の計画を達成するに至りませんでした。主力業態「源ぺい」の既存店売上高が前年を 8%程度下回るなど厳しい状況となりました。

営業利益につきましては、既存店売上高の減少影響に加え、社員の中途採用、パート募集時給の上昇による人件費の高騰 20 百万円及び野菜等の原材料価格高騰 5 百万円、広告宣伝費の増加 6 百万円、「源べい」への業態転換 2 店舗及び 9 店舗の内外装工事に 10 百万円の修繕費を使用したことなどにより前回予想を下回る結果となりました。

また、経常利益、当期純利益につきましても、特別損失 185 百万円の計上等により、前回予想を下回る結果となりました。

以 上